

開催地名	東京都国分寺市
開催日時	令和6年1月17日（水） 14：00 ～ 15：30
開催場所	cocobunji プラザ リオンホール AB
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	国分寺市民、市民防災推進委員 58 名
開催経緯	国分寺市では、市と協定を結び様々な防災活動を行っている防災まちづくり推進地区という地区が 15 地区あり、市の半分の面積をカバーしているなど、精力的に防災活動を行っているが、実際に被災した経験がないため、国分寺市と近い仕組みを持つ自主防災組織の方のお話を伺い、現在の各自主防災組織の体制の見直し等の参考にしたい。
内容	（１）はじめに 私が所属する市名坂東町内会は、仙台市の泉区東部に平成 20 年に設立した、現在加入数 186 世帯の町内会で、働き盛りの 4、50 代の方や単身赴任の家庭が多い中で、必然的に私達女性が立ち上がり、作り上げた町内会である。役員 9 名が全員女性であることは、仙台市では初めてのことだ。 町内会の 3 つのスローガン「防災、子育て支援、ふるさとづくり」の中でも「防災」に注力した活動を行ってきた。身の丈にあった町内会、オリジナリティーのある町内会、そして、街をつくるために人が集まる場所がなくてはならないと考えた。町内会と自主防災組織、婦人防火クラブの性格を兼ね備えている組織と言える。ボランティアであるので、無理はしないこととしている。 （２）東日本大震災時の状況と避難所生活 震災当日、家電量販店での買い物中に被災した。立ってられないほどの強い揺れが襲い、店内はガラスの割れる音や悲鳴が響いていた。外では周囲の電柱が倒れそうになり、車が上下に大きく動いている恐ろしい光景が広がっていた。泉区は内陸のため、幸いなことに津波被害はなかった。集会所には女性や子供など 100 人が避難し、町内会員以外の方も受け入れた。 避難者の中からリーダーとサブリーダーを決め、町内会はサポートする形で避難所運営に入った。リーダーとサブリーダーの指示に従うようお願いし、「指示に従わない人は出ていって構いません」とアナウンスしたところ、出て行ったご夫婦もいた。電気は 2 ～ 3 日、水道は 3 ～ 4 日、ガスは 1 カ月で復旧した。卓上コンロを使って各自で持ち寄った材料で子どもたちが料理を作り、ほのぼのとした時間も取れた。支援物資の引き取りの支援を受けたのは 12 日と 13 日の 2 日間だけで、その後は各家庭で対応していただいた。ぎゅうぎゅう詰めの体操座りでいた避難所で、思いがけず優しい言葉をかけてくれる方もいれば、泣き続ける人、自分の権利主張だけをする人もいる。人間の色々な一面が見えてくる。避難所では、自分本位にならない事が一番大切である。避難所で起こった問題は、トイレ、ノロウィルスの発生など多岐にわたった。

	(3) 顔の見える町内会作りと自主防災の組織の在り方（震災後の活動） 市名坂小学校区は1万人以上の人口で、小学校を拠点とした町内会、連合町内会、市民センター、児童館、民生委員、青年団、PTA、婦人防火クラブ等の20の地域団体がある。こうした組織を取りまとめ平成25年度に避難所運営委員会が発足した。行政に頼るだけではなく、地域住民一人ひとりの声を聞きながら、初代事務局長として邁進している。委員会では、救護班、総務班、情報班等の各班の具体的な活動内容の充実化を計り、スムーズな運営を心がけている。そしてまた、地域の顔がよく見えることや気軽に声掛けできる雰囲気づくりを目指し、女性ならではの視点を活かして活動するために女性コーディネーターを設置した。 避難所運営委員会での活動ではトイレの設置の訓練や、尿漏れパットや生理用品を入れる為のエチケット小袋の作成なども行っている。 また、「避難所でのマナー5か条」を作成し、避難所での規則を守る大切さを訴える。 1 「ビブス」を着用した係員の指示に従うこと 2 お互い様、思いやりの気持ちを持つこと 3 自分勝手なふるまいは控え、協力すること 4 弱者（乳幼児・障害者・高齢者）には目配り、気配り、心配りをする 5 気分が悪い時はすぐに申し出ること（例インフルエンザ、ノロウイルスなど伝染病が考えられるから） (4) 最後に 一人ひとり尊い役目がある。被災者の方々は、それぞれの役目を、みんなが自分なりに一生懸命に果たした。子供だからとか、男性だからとか、女性だからとかではなく、私の役目、貴方の役目、みんな違ってそれでいいと思う。いつ起こるかわからない自然災害に立ち向かうことは難しいけれど、「防災」や「減災」について考え、実践していくことは必要である。住んで良かったと思えるよう、町を愛していく事が大切だ。
開催地より	東日本大震災時における自主防災組織で運営した避難所の状況や避難所運営協議会、消防署のお話、被災した実家の状況について等、リアル感のある貴重なお話を聞くことができ今後の自主防災組織の活動の参考となった。